

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.44 2017/04/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

春暖の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より子ども達へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私が子どものころブームとなったNHK特集「シルクロード」をご存知の方はいらっしゃるでしょうか。中国の秦・漢または唐帝国の都、長安からローマにいたる歴史的な交易路で「絹の道」とも云われています。私は、今でもテーマ曲を鮮明に覚えています。シルクロードを通じて西洋とアジアの文化が出会い、発展していったのです。

また、この交流を淵源として、英語で中国のことをChinaというようになったとも云われています。中国で最初の統一王朝を築いた秦（Chin）帝国が語源との説が一般的です。ローマ帝国の共通語であったラテン語やギリシャ語では、国や地域は女性形なので、Chin がChina（シーナ）に転じ、やがて英語でチャイナと呼ばれるようになったわけです。

時代は移り、隋王朝のころ、インドから仏教とともに「シナ」という呼称が伝わり、「支那」という字が当てられるようになりました。

ところで、私たちの国では、支配者が天皇家や鎌倉幕府、江戸幕府であっても国の名は「倭」や「日本」だという認識が民衆にはあったと思いますが、中国においては、自分たちの住む国や領域を何と呼ぶかについて定まっていなかったようです。

史書を読んでも、その時代の王朝名がわかるだけで、その支配地域というか国の名前はよくわかりません。王朝の名がそのまま国の名前になっているようなのです。

つまり、「支那」と呼んでいたのは外国人であ

って、その国の人々ではなかったようです。

近代になり、清王朝がモンゴルやチベットを征服し、そのあとを継いだ中華民国や中華人民共和国が歴史的な漢民族の支配地域とその周辺を含む諸地域を「中国」と呼ぶようになったと記憶しています。

やがて、日中間の不幸な戦争によって、「支那」という呼び方が日本の軍国主義を思い起こさせるという批判があり、最近では東シナ海、南シナ海というようなカタカナ表記に改められていたりしています。

いわゆる中国人にとって、自分たちの住む地域が『中国』であるという認識は、近代になってようやく獲得されたものといえるのかも知れません。

私たちが自立を支援している子ども達も、家庭で養育できない子どもは社会が責任を持って養育するという理念の下に育てられてきたひと達ですが、自分たちのことを「社会的養護」の子どもと認識するようになるのは、自立のために社会へ出て行くことが意識されてからのような気がします。

思春期を迎え、就学から就労自立に移っていく過程で、自分のこれからの人生を強く意識するようになると思うからです。

それまでは、ただ自分という存在があるだけだったのが、社会という大きな集団の一部として存在し、相互に助け合いつながり合っていると知ることが、公共性や社会性を獲得する一歩であると私は考えていて、「自立援助ホーム」はその認識を伝えるために、とても有効な社会資源であると思っています。

つぼみの家

職員 丸野志帆

暖かい日が続き、春風に誘われてふわふわと外に漂い出たくなるような季節になりました。

この季節のお菓子といえばなんといっても桜

餅！綺麗なピンク色に桜の葉の匂いがほのかに香り、中には甘いあんこがたっぷりと。春を満喫させ、幸せな気分になてくれます。

ところで、ご存知の方も多いと思いますが桜餅には2種類あります。関東は小麦粉のクレープのようなものであんこをくるむ長命寺、関西はおはぎのようにもち米のつぶつぶが残るものであんこを包む道明寺。私は東京→静岡→和歌山と暮らしてきたのでどちらも馴染み深く、かつ道明寺の方が好きなのであまり気にしてはいなかったのですが、久しぶりに長命寺の桜餅を食べたくなったところ、なんと和歌山ではどこにも売っていないのです。それどころか長命寺の存在を知る人も数少なく…

あらためて調べてみたところ長命寺は関東風とは呼ばれるものの、関東甲信地方を中心に東北地方・静岡県・長野県・石川県金沢市周辺・島根県東部・鳥取県西部でしか見かけることがないようです。

また、関東風は隅田川沿いの長命寺の門番が桜の落ち葉掃除中にふと思いついてできたものであり、関西風は大阪の道明寺で保存食として作られたのが起源だそうです。どちらもお寺の名前がついているのはただの偶然で、別々の由来があることにも驚きました。和歌山で長命寺の存在があまり知られていないことにも納得です。

さて、つぼみの家には、和歌山だけでなく他府県から子どもたちが入居してくることもあります。また、これまでの生活環境の違いも多々あり、一人の当たり前がみんなの共通認識であることはそう多くありません。社会常識は別として、そんな個々のバックグラウンドの違いや思い入れをお互いが尊重できるような場所であれるよう、職員として尽力していきたいと思っています。

わたちの家の在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
1月	人数				1	1
2月	人数				1	
3月	人数				1	

※全員男子です

わが家の子ども達

W太：成人してホームの近くで一人暮らしを始めました。定期的に近況を知らせてくれます。

X太：就労も安定し、生活も落ち着いています。友人や家族との関係など、自立のため、次のステップを試行錯誤中です。

つぼみの家の在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20 歳 以上
1月	人数	1			1	2	
2月	人数		1	1	1	2	
3月	人数		1			2	

※全員女子です

わが家の子ども達

L子：2月に、自立のため退居し、一人暮らしを始めました。

O子：揺れながらも、就労を継続し、頑張っています。

P子：本人のペースながら、就労も無遅刻・無欠勤で、安定した暮らしぶりです。

Q子：地元に戻りたいという本人の願いもあり、3月末に転居となりました。

R子：1月に入居するも、本人の希望もあり、1ヶ月ほどで退居となりました。

S子：3月に入居し、学業と自立の両立を目指しています。

1～3月のわたちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

1/14 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)性教育(男子)講習を実施。

1/19 和歌山県児童養護施設協議会の職員研修会に川口・田中・上西職員が参加。

1/21 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)性教育(女子)講習を実施。

2/02 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の職員研修に川口が参加。

2/12 法人の理事会において、来年度の事業計画について協議。

2/16 自立援助ホーム近畿東海地区の連絡会に川口、田中が参加。

3/07 児童養護施設の職員研修で川口が講義

- 3/13 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が参加。
- 3/17 和歌山大学教職大学院の授業にゲストスピーカーとして川口が講義。
- 3/19 和歌山子どもの虐待防止協会のシンポジウムに川口、田中が参加。
- 3/24 和歌山南ロータリークラブ様より支援金をいただき、川口が卓話で自立支援について話す。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 1月1日より3月31日までの寄附金
- 1月1日より3月31日までの寄附物品
フードバンク和歌山様、匿名希望様
- 1月1日より3月31日までの援助基金
菱岡工業株式会社様
和歌山南ロータリークラブ様
「ご支援有難うございます。」

○援助基金会計報告（1/1～3/31）

収入の部

援助基金 400,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 290 円

3月末残高

760,079 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

「下駄も阿弥陀も同じ木の切れ」といいます。出発点は同じでも、各々の心がけや努力次第で境遇に大きな差が出ることを例えたことわざのひとつですが、そもそも、出発点に大きな開きのある子ども達にとっては、努力の効能を疑いたくもなろうというものです。

それでも、「使っている鍬は光る」というように、たえず努力している人は生き生きとして見えます。私たちのホームに来る子ども達も、スタート地点のはるか手前から走り出さなければならないもどかしさを抱えつつ、それでも、その子なりに頑張る姿に心密かに声援を送っているのは、私だけではないはずです。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

（援助基金のお願い）

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

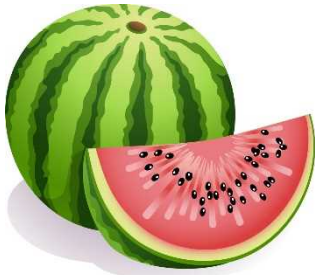
VOL.45 2017/07/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

酷暑の候、ますます
御健勝のこととお慶び
申し上げます。

平素より子ども達へ
のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

最近、ホームで夕食をとりながらテレビを見ていると、やけにクイズ番組の多いことに気がきます。高学歴の芸能人らを回答者にして、多方面の知識が求められる出題に、お茶の間の私たちも一緒になって答えていくのは、それなりに楽しく、わだちでも今ちょっとしたブームです。

とはいえ、よくよく考えてみると、出題される問題の多くはスマホとネット環境があれば、大概答えてしまえるのです。難関高校や大学に進学し、頭の中にたくさんの知識を詰め込まなくても、だれでも容易に知りたいことを調べられる時代に、私たちは生きています。

一方で、ニュースやワイドショーで語られる現代社会の出来事や問題についての解説はあまりに表層的で、一昔前の井戸端会議のように他愛のないものが多く、ではどうすれば解決できるのかを教えてはくれません。

入試のように、あらかじめ正解が決まっているものなら、過去の事例を紐解けばいいのですが、私たちが今直面している問題の多くは、これまで誰も解いたことのない問題だと思のです。

たとえば、急速な情報技術の進展（AIが働き方を変えるかも？）、少子化による人口減少社会の到来（社会保障の破綻？）、不安定化する安全保障（テロを未然に防ぐには？）など、枚挙に暇がありません。

これらは、私の世代ではさほど切迫した問題

とは思われなくとも、これから若者になる世代には、重い課題となることでしょう。無責任な世代と後世に誇られないためにも、せめて自分のできる範囲で、次の世代を育成し、問題解決の端緒をともに開きたいものです。

つぼみの家
職員 上西佑季

今年は猛暑日が多い段階から続き、梅雨明けをしていないのに快適とはいいがたい日が多いように感じられます。和歌山では梅雨入りを発表してすぐに快晴が続いたため、こどもたちは「今年は梅雨なんてないんだ！」と冗談めかして話したりしていましたが、つい先日からあいにくの曇天続き。雨の中、空に向かって悪態をつきながらも頑張って仕事に向かう子どもたちの姿をほほえましく感じると同時に、多少の悪天候でもめげずにしっかりと出勤できることに、就労に対する成長がより感じられ、うれしく思います。

梅雨というと湿度が高くジメジメとし、さらに雨まで降って気持ちまでも落ち込んでしまう人は多いと思います。何かしようと思ってもやる気が出ない、楽しくない…これらは気持ちの影響だと考えてしまうかもしれませんが、梅雨が体へ影響している場合もあるのです。

「幸せホルモン」としても知られているセロトニンですが、梅雨の時期はそのセロトニンの分泌が減ってしまいやすい環境になってしまうことをご存知でしょうか。セロトニンの分泌を促すには太陽の光を浴びることが効果的ですが、梅雨の時はどうしてもお日様が隠れる日が多くなりセロトニンが少なくなってしまうがちです。また雨の日は外に出るのが億劫になり、家の中にこもりがちに…なんてことも。家にいると運動量が不足しがちに。実はセロトニンは運動をすることによっても分泌されます。なので、

日光が少なく運動量も減ってしまいがちになる
梅雨時分はセロトニンが不足しやすくなり、憂鬱な心持ちになってしまいがちです。

とはいっても、徒歩や自転車で毎日出勤しているこどもたちの元気な様子を見る限り、梅雨による憂鬱など吹き飛ばしてしまうエネルギーがあるのかもしれないね。

わだちの家
職員 菊山麻美

早いもので、私がわだちの家に勤務して、三年目の夏を迎えようとしています。

高校生ならば最高学年。先輩ぶって新入生を初々しく思い、学校生活にも慣れ切って、マンネリの中に少しの刺激を求める頃でしたよね。将来の不安、そして進路を決定しなければならぬ人生の岐路。今思うと、高校三年間などあつという間で、突然、あなたは将来何になりたいの？そのために何を勉強するの？働くの？と問われてばかり。まだ何者でもないのに酷なことです。しかしながら、期限を設けられているということは、束縛もある代わりに、目標を定める機会を与えられていることでもあるのです。「わだちの生活は嫌だったけど良かった。」と多くの退居児が言います。

けれど、自分が入居児だった時に、そのことに気づくことはありません。環境が変わり、自分を客観視できたとき初めて、かつての先輩退居児の言葉に共感するのです。

子どもたちは、生活に慣れてくると、仕事がつまらない、人間関係が嫌だ、この会社でいいのか、果ては、このまま生きていて何かいいことなんてあるのか？と自らに問いかけます。

カッコ悪いけど教えてあげたいな。

『日々の仕事に忙殺され、自分の本当にやりたいことが見えている大人なんて、ほんの一握りなんだよ。ただ与えられた仕事を達成しているだけだとしても、そこには成長があって、薄っすらと将来が見えてくるものなの。』

死にたいという人に「生きていればいいことがある」なんて気休めは、絶対に言うてはいけならしいけど、本当に「生きていてよかった」と思えることがあるんだ。』

わだちの家在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
4月	人数				1	
5月	人数					
6月	人数				1	

※全員男子です

わが家の子ども達

X太：家族と共に暮らすことになり、4月に退居しました。

d男：就労継続と自立の訓練のため、5月にこれまで暮らしていた学園から転居となりました。

つぼみの家在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
4月	人数				1	2	
5月	人数				1	2	
6月	人数				1	2	

※全員女子です

わが家の子ども達

O子：二十歳の誕生日が近づき、関係機関とも連携しながら、退居の準備を進めています。

P子：相変わらず就労も安定し、本人なりのペースで自立のための準備も始めているようです。

S子：学業と自立準備を両立させるために、就労先も変更し、本人なりに試行錯誤中のようにです。

4～6月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

4/11 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の会計監査をおこなう。

4/17 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。

4/20 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の常任委員会に川口が出席。

4/24 全国自立援助ホーム協議会の総会・ホーム長研修会に川口・平山が参加。

5/07 アフターケア事業として退所児童との交流会（バーベキュー）を実施。

- 5/9 和歌山県児童養護施設協議会の総会・職員研修会に川口・田中が参加。
- 5/22 和歌山南ロータリークラブ様と和歌山市内の児童養護施設等との協議会に川口が出席。
- 6/1 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の総会・職員研修会に川口と田中・尾崎職員が参加。
- 6/4 NPO 法人トレスの総会をおこなう。
- 6/23 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)職員向け性教育を実施。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 4月1日より6月30日までの寄附金
- 4月1日より6月30日までの寄附物品
更生保護女性連盟様、嶋倉様
フードバンク和歌山様、匿名希望様
- 4月1日より6月30日までの援助基金
前原壮行様、林祥子様、山本彰宏様

「ご支援有難うございます。」

○援助基金会計報告(4/1～6/30)

収入の部

援助基金 18,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 260 円

6月末残高

777,819 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

「綸言汗の如し」(漢書)とは、君主の言葉は一度発せられると取り消しがたいことを云います。

一方で、「過ちて改めざる是を過ちという」(論語)とは、過ちは誰でも犯すが、本当の過ちは、過ちと知りながら悔い改めないことを云います。

人は、その立場によって二つの格言を使い分けるのですが、私個人としては、間違えたら改めて正し、次につなげるほうが好みます。

そういえば、当法人も「誰もがリカバリできる社会づくり」を共通の理想としていたのでした。間違えるのは仕方ないのです。人間ですから。大事なものは、いかに挽回するかなのだと思うのです。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻く状況なども可能な限り、この「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

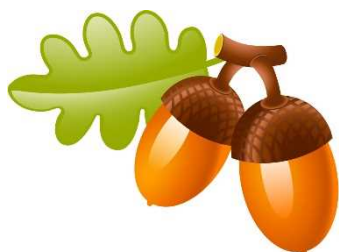
かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.46 2017/10/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13
TEL & FAX : 073-419-0888
自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185
TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

錦秋の候、ますます
御健勝のこととお慶び
申し上げます。

平素より子ども達へ
のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、16世紀イタリアの著名な物理学者ガリ
レオ・ガリレイは、「それでも地球は動いている。」
という名言や自作の望遠鏡で木星の衛星を発見
したことで知られていますが、他にも感慨深い
言葉を多く残しています。たとえば、

「見えないと始まらない。見ようとしないと始
まらない。」

「私は、何も学ぶべきものがないほど愚かな人
に会ったことはない。」

「人にものを教えることはできない。自ら気付
く手助けができるだけだ。」 , etc .

私たちは、ついつい子どもに自分の意見を押し
付けがちです。なぜなら、これまで生きてき
た教訓からそれが正解だと知っているからです。
とはいえ、問題は自分で解くから楽しいのであ
って、はじめから答えがわかっている問題に人
は興味を持たないものです。まして、他人の意
見を押し付けられても、素直に聞けるものでは
ありません。

自立援助ホームの仕事も、これと似ています。
私たちは、自立するための知識を教えているの
ではなく、子どもたち自身が「自立している自
分、自分で考え、自分の言葉で他者と関係を結
べる自分であることに自信を持つ」ように働き
かけているのです。

しかしながら、これは容易なことではありま
せん。アメリカの思想家エマーソンもこう言っ
ています。

「自分に何ができるかは、自分以外の者には分

からない。いや、自分でもやってみるまではわ
からないものだ。」

実は、自分でもわからないという点では、子
どもも私たちもそれほど違いはないのです。た
だ、自分の出来ることをするという意志のみが、
重要なのではないかと考えています。

つぼみの家

職員 藤村里恵

「人間には、越えるべき試練の量が決められ
ており、解決できるだけの力を与えられている」
と謂われています。そして、「苦労した分、大き
く成長し、他人の心の痛みや苦しみに寄り添え
る」とも聞きました。

その時私は、自立援助ホームに来ることも達
に思いを馳せました。苦難とは、幸せを探す過
程だといいますが、子ども達は、望むと望まざ
るとにかかわらず、生を受け、なおかつ、自分
の置かれた境遇に苦労と忍耐を重ね、これまで
の日々をすごしてきたことと思います。

しかし、今ホームにいる子ども達は、健康管
理を怠らず、遅刻や欠勤もせず社会の一員とし
て頑張っています。そんな子ども達の姿に深い
感銘を受けると同時に、日々、たくさんのこと
を教わっています。

これからも、今まで生きてきた以上に長い人
生が待っています。その中でつらいことにも苦
しいことにも数多く出会うことでしょう。

そんなときは、立ち止まって、少し休んでみ
ることです。回り道も時には必要です。そして
一歩一歩進んでいけばいいと思います。

人生は失敗と挫折のくり返しです。もちろん
反省は必要ですが、後悔しない生き方をしてほ
しいと願っています。

これから巣立っていく子ども達に奥深く難し
い言葉を贈りたいと思います。

「他人の欠点は夜のごとき闇の中へ
怒りと恨みは死のごとく無きものに

寛容と許しは海のごとく広き心に」

私自身も贈るだけでなく、胸に刻み、人生の目標に掲げていきます。

わだちの家
職員 藤田龍士

私が社会人になって十数年が経ち、色々な事を経験し、そこから多くの学びがありました。

その中で今も一番心がけていることは、一番初めに教わった「報・連・相」です。前職で現場監督をやっていた時の話ですが、入社初日先輩にいきなり『ほうれんそう』って知っているか？と聞かれたのですが、学生時代『ほうれんそう』という言葉聞いたこともなかったので「野菜ですか？」と即答すると「お前そんなことも知らんのか！？」と社会人になり初めて怒られたことを今でも覚えています(笑)。

その後、『報・連・相』はワンセットなので3つのうちなにひとつ欠けてはいけない。いつか部下をもった時、『報・連・相』をしてもらえる関係性を構築しなければ本当の意味で報・連・相は成り立たない。」と説明して頂きました。

当時は「そうなんだ～」ぐらいの気持ちで聞き流して仕事をしていましたが、その後、わだちの家でお世話になることになり、さまざま入居者と接する中で気付いたことがあります。

入居者は大きく分けて、私生活の悩みや仕事の悩みをどんどん言ってくる子と逆に私から聞いても多きを語らない子に分かれていることです。前者はあまり問題なく大丈夫ですが、後者に対してはまったく上手く話を聞くことができません。「相性が合わないのなら仕方ない。他の職員さんに任せよう。」と思っていましたが、その考えに納得できず、悩んでいました。

そのとき、監督時代の先輩の言葉を思い出して「これは正に報・連・相と同じではないか？入居者は部下ではないが、関係性を構築しなくては何も始まらない。」と思い行動してみると、それまでとは比べ物にならないぐらい話をしてくれるようになりました。

あの頃の先輩の言葉を本当の意味で理解できているのか、今の私にはまだわかりません。

ですから更に精進し、わだちの家の子どもたちと共に学んでいきたいと思えます。

わだちの家の在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
7月	人数					1
8月	人数					1
9月	人数		1			1

※全員男子です

わが家の子ども達

d男：安定した就労と落ち着いた生活を送っています。やるべきことを先送りするところが少し心配です。

e男：はじめての面接で見事に受かり、第一希望の仕事で頑張っています。

f男：9月末に入居しました。新しい環境に、まだまだ戸惑っている様子。

つぼみの家の在籍数（H29年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
7月	人数				1	2	
8月	人数					2	
9月	人数					2	

※全員女子です

わが家の子ども達

O子：9月に二十歳になり、巣立っていきました。

P子：いよいよ来春には二十歳になります。就労も継続し、本格的に自立のための準備を始める頃合？です。

7～9月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

7/04 全国自立援助ホーム協議会の女性スタッフ研修に上西職員が参加。

7/13 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）職員向け社会保障制度研修会を実施。

7/14 全国自立援助ホーム協議会の運営役員会に川口が出席。

7/20 自立援助ホーム協議会の近畿・東海地区連絡会に川口、田中が出席。

7/25 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。

7/30 わだちの家で退居者のためのバーベキュー大会をおこなう。

- 8/08 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング) 一泊
～09 研修をダイワロイネットホテルで実施。
- 8/25 和歌山南ロータリークラブ様と和歌山市内の児童養護施設等との協議会に川口が出席。
- 8/29 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の常任委員会に川口が参加。
- 9/20 西日本児童養護施設職員セミナー和歌
～22 山大会に川口、田中が参画。
- 9/27 宮崎県社会福祉協議会の児童協合同研修で川口が講義。
- 9/30 法人理事会を開催し、今後の事業方針について協議した。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 7月1日より9月30日までの寄附金
- 7月1日より9月30日までの寄附物品
匿名希望様
- 7月1日より9月30日までの援助基金
前原壮行様、片岡啓様、㈱大城商店様

「ご支援有難うございます。」

○援助基金会計報告 (7/1～9/30)

収入の部

援助基金 20,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 210 円

9月末残高

797,609 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

社会的養護に来る子ども達には、様々な事情があります。よくある思い違いに、親のいない子どもが施設に入るといものがありますが、実際には、親がいても諸事情で育てられないということは間々あります。虐待という痛ましい事情もあれば、親の病気や離婚など、どの家庭でも起こりそうな出来事もあります。

昔にくらべ、核家族化やひとり親家庭の増えた現代では、ちょっとしたアクシデントでも子育てを困難にしまいかねません。自立援助ホームを巣立ち、すでに家庭を築いている子どもたちもちらほら出始めていますが、想定外の出来事に直面したとき、彼ら彼女らの心のよりどころとなって、支えていける存在となればと念じています。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻く状況なども可能な限り、この「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.47 2018/01/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

新年おめでとうございます。
ますます御健勝のこととお慶び
申し上げます。

平素より子ども達へのご理解とご協力を賜り
厚く御礼申し上げます。

さて、昨年初に国連事務総長に就任したアントニオ・グテーレス氏の出身地ポルトガルといえば、大航海時代にいち早く乗り出し、世界中に植民地を獲得したことで有名です。この海外進出を推し進めたのは、ヨーロッパで最初に絶対主義を確立したといわれるアヴィス朝ですが、この王朝の創始者であるジョアン1世が「庶子」であったことはご存知でしょうか。

ポルトガルが栄える基礎を築いた、「大王」とも呼ばれる優れた人物でしたが、当時の伝統的なキリスト教社会では、様々な差別を受けて育ったものと思われます。

キリスト教では、結婚は神との契約と考えられていたため、正式な結婚によらず生まれた子ども＝「庶子」には相続権もなく、社会的な差別の対象であったようです。

このあたりの事情は、惣領冬実さん作の漫画「チェーザレ 破壊の創造者」(主人公チェーザレ・ボルジアもローマ教皇アレクサンデル6世の庶子だった)に詳しく描かれているので、よかったですらご一読いただければと思います。

ジョアン1世は実力で差別をはねのけ、自分の国を打ち立てましたが、チェーザレは、志半ばで斃れました。一方、正当な結婚で生まれた＝「嫡子」の多くは、労せずして親から譲り受けた地位や財産を全うしたことでしょう。



もちろん、嫡子であっても没落した歴史上の人物もいます。桓武天皇や北条泰時、徳川吉宗も庶子であったといわれています。嫡出庶出といった区別で、全てが決まるわけではありません。

とはいえ、子どもが親を選べないのは、洋の東西を問わず、また過去も現代も関わりのない現実です。生まれ育った環境によって、子ども達の中に眠る可能性が花開くこともあれば、その逆もありうるのです。

今の時代、庶出による差別はなくなりましたが、一人の人間として主体的に生きるために必要な経験を保障できているかは疑問です。

社会的養育に係わる私たちは、必要な支援のあり方を現場における実践を通じて、いっそう真剣に考え、発信していかなければならないと考えています。

つぼみの家 ホーム長
平山弥生

【徒然なるままに、恥について】

太宰治の『人間失格』の中に「恥の多い生涯を送ってきました云々」とあります。

ありのままを出す事を知らない、ぎこちなさを道化でごまかし、ある日誰かが正体を見破って、思いっきり赤恥をかかされるのではないかと恐れている、そんな内容だったと私は解釈していますが、「恥」について、

「恥ずかしい」という気持ちは、何か一つの基準、または理想があって、自分はそれを遂行できないのではないかと、失敗するだろうという恐れ、また遂行できなかったという負い目の意識から生まれ、そこには、「自分が周囲の人にとってどう映るか」という強い自意識が働くその産物ではと私は思っています。

そしてそれは、自己の内的な問題である為、個々に恥の基準(?)も違う訳です。

日本人の恒久不変の目標は名誉であり(かな

り独断)、失敗や誹謗中傷、排斥のために傷つき易く、この恥に傷つき易い事が、日本人のいわゆる美德のひとつであり、それがエネルギーの源でもありました。でも最近は、恥の部分売り物にして開き直りができる人種も登場する時代、恥の概念も変わっていくのでしょうか・・・？

ともかく、大いに恥をかく事、それが原動力になり、ひとつ遅しく成長していく、そう前向きに考えたいものです。

そこで、私は言いたい。

「少年よ恥をかけ。そして恥を知れ。そこから学べ！」

わだちの家
職員 尾崎初美

子どもの頃、毎年年始に、「今年の抱負は」と聞かれたものです。目標を持つ事は大切な事だと思いつつ最近は、私の中では漠然としていて具体的なものではないと感じ、平成最後の年でもあるので、今一度、明確な目標を持つ事にし、子どもたちにも抱負を聞いてみました。食事時 いつもは、他愛もない話で盛り上がりますが、突然の問いかけに、どの子も真剣な顔になり、「自立のために転職を決めたい」、「今の仕事を辞めずに頑張っていていきたい。稼いだお金で欲しいものをいっぱい買いたい。いま好きな女の子と、もっと仲良くなりたい。」、「家では、ちゃんとできていないが、社会人になったので、外では、きちんとやっていきたい。」等々と語ってくれました。

ある人の話の引用ですが、人は仕事の悩み、人間関係、お金の事などで、自分の命をすり減らしながら生きていますが、大自然を見ると川の流れ、激流にある石ほど石同士がぶつかり合い削られて角がとれて石の大きさは小さくなるが丸い石になっていく様に、他人とのぶつかり合いで磨かれ丸い魂になっていくのです。自分にあるトゲは他人との相克により削られ、自他から出す受ける愛情により表面が滑らかになり、加齢と共に身体も小さく心身ともに丸くなっていきます。

子どもたちには、まだまだ長い年月ですが、日々の生活の中で嫌なことも飛ばさず目標に辿り着くよう頑張ってもらいたいものです。

わだちの家在籍数（Ｈ２９年各月１日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
10月	人数		2			1
11月	人数		1	1		1
12月	人数		1	1		1

※全員男子です

わが家の子ども達

d男：来夏に迫った自立のために、就労や生活の再構築につとめています。歩みのペースは気になりますが・・・。

e男：第一希望だったアパレルの仕事を頑張っています。

f男：自立のためには、まだまだ学ばなければなりませんが、就労は安定しています。

g男：年の瀬も押し迫ってから入居しました。

つぼみの家在籍数（Ｈ２９年各月１日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
10月	人数					1	
11月	人数		1			1	
12月	人数		1			1	

※全員女子です

わが家の子ども達

P子：まもなく二十歳。就労を継続しながら合間に新居探し中ですが、のんびり屋さんなので、周りがハラハラしています。

T子：10月に入居し、すぐに就労先にも恵まれました。自立を目指すには、解決すべき課題も多いのですが、今は頑張っています。

10～12月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

10/19 全国自立援助ホーム協議会の仙台大会～20に川口、田中・上西職員が参加。

10/21 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)身近な法律の話を弁護士会館で実施。

10/23 委託ケースの検討のため、中央児相ケースワーカーが来所。

10/30 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。

- 10/31 わだちの家とつぼみの家の運営について県の指導監査を受けました。
(指摘事項・指導事項：なし)
- 11/11 人権フェスタの児童福祉関係7団体による展示ブースに川口・田中が参加。
- 12/05 児童福祉施設連絡協議会の県外研修に～08 川口・田中が参加
- 12/09 和歌山大学教職大学院の授業にゲストスピーカーとして川口が講義
- 12/16 SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)「社会資源の利活用」講習を実施。
- 12/19 和歌山県児童養護協議会の常任委員会および大阪ガス様 PC 寄贈プログラム贈呈式に川口が出席。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 10月1日より12月31日までの寄附金 白杉武志様
(お正月行事に活用させていただきました)
- 10月1日より12月31日までの寄附物品 フードバンク和歌山様、川島寛子様 大阪ガスともしびクラブ様 (株)オーズ総研はじまるくん事務局様 和歌山県更生保護女性連盟様、匿名希望様
- 10月1日より12月31日までの援助基金 前原壮行様、山本彰宏様 和歌山県更生保護女性連盟様

○援助基金会計報告(10/1～12/31)

収入の部

援助基金 25,000 円

受取利息 2 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金 0 円

振替手数料 80 円

12月末残高

822,531 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

「新しい酒は新しい皮袋に盛れ」ということわざがあります。新しいぶどう酒を古い皮袋に入れると両方とも駄目になるという新約聖書からの引用ですが、新しい考え方には、それに応じた新しいやり方が必要ということでしょう。

思春期を迎えた子ども達の自立を支援するのもこれに似て、幼少期の保護の対象から、一個の人格を持つ者として、自分で決定しその責を負う存在であると認めることが大切です。

自立を控えた子ども達には、それぞれの課題に応じた新しいやり方が必要です。

とはいえ、その『やり方』が分かれば、苦労はしないのですが。まさしく、「任重くして道遠し」です。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、県内の子どもたちを取り巻く状況なども可能な限り、この「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進したいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち